

3学期に入り、子どもたちは元気に登校できていることが一番の喜びです。

そんな中、小塩江小学校は県主催の「長縄コンテスト」に向けて、全力投球してきました。2～4年生の「小塩江ヒーロー」、5・6年生の「光れ！小塩江5・6年魂」は見事県で1位を取ることができました。

11月から始めた長縄の練習。県一位を目指すことを目標に2つのチームは練習を積み重ねてきました。練習時間は休み時間。当然のことながら遊びたい気持ちはあります。その中で練習をやるかやらないか、子どもたちが自分達で考え、決めさせてきました。一人でも気持ちが乗らない人がいれば練習はやりません。練習はじめは全員の気持ちが「練習する」という一つの気持ちになることが難しい日もありました。

記録も伸び悩む時期が1ヶ月半続きました。コンテスト締め切りが1月30日。その3日前まで、どちらのチームも記録更新ができず、悩んだり、あきらめかけたりと、モチベーションを保つのにみんな必死でした。それでも、全員が励まし合って跳び続けました。

1月30日最終日。まず5・6年生が418回と初めて400回を超える記録を出しました。とても大きな壁でしたが、最後までチームを信じて取り組んだ成果でした。2・3・4年生も、とても苦しい日々が続いていました。その時点での1位の学校の356回を超えなければ、絶対に1位はなれません。ラスト一日、とにかく放課後ギリギリまで記録を超えるまで跳び続ける気持ちで何度も測定を行った結果、お昼休みに378回というすごい記録を打ち出しました。この瞬間、全校生が飛び上がりながら、大きな歓声を上げていた姿が今でも目に焼き付いています。

2月4日。いよいよ結果発表の日です。朝の8時10分に全校生が一つの教室に集まってドキドキしながら結果を見ます。2つのチームが1位と分かった瞬間、子どもたちは本気で喜び、お互いをたたえ合っていました。私はこの歓喜の瞬間を全員で味わえたことが、なによりも学校教育の中で大切なものだと思っています。

子どもたちにとってこれから人生は、決して楽な道のりではありません。しかし、この長縄の経験はきっと大きな力となり糧になるはずです。私達にとって教育とは何が大切なのか、改めて考えさせられた長縄でした。

最後に、子どもたちの作文の一文を紹介します。

『人生の10年で一番うれしいことだったかも知れません』



**今年度のテーマ「挑戦」**    ～挑戦の分かれ道～